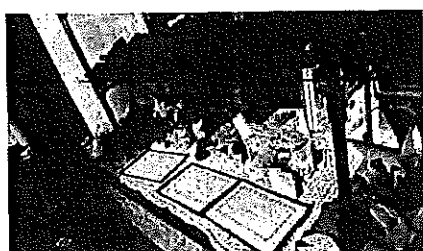


印教研図工・美術研究部テーマ  
「造形教育はこれからも未来をつくる」  
～身に付けさせたい力は何かを問う～

「アートプロジェクトの視点を取り入れて  
地域と共に成長する美術教育を実現する」  
～アートプロジェクト八街ミュージアム～

「板倉農物店」2018笹引小



「総武住販」2019実住小



「秋山百貨店」2019八街東小



「あまさげや家具店」2019八街中央中



「あまさげや家具店」2018交進小



### アート・プロジェクト Art Project

作品そのものより制作のプロセスを重視したり、美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒介に地域を活性化させようとする取り組みなどを指す。クリスト&ジャンヌ=クロードによる、建物や橋、島を巨大な布で梱包する取り組みが有名。欧米から高い評価を得るベネッセアートサイト直島をはじめ、日本でも数多くのアート・プロジェクトが展開されているが、目的や活動内容は多様で、明確な定義があるわけではない。日本で「アート・プロジェクト」という言葉が使われ始めたのは1980年代前半で、川俣正や柳幸典がその先駆けだが、既存の展示スペース以外の場所で展示しようとする試みは、50年代から野外美術展というかたちで行なわれていた。60年代にかけて作家が自分たちで場所を探して展覧会を行なう動きが活発になり、この流れは70-80年代に続いていくが、それは美術館やギャラリーの枠に縛られない自由な制作がしたいという作家の興味や関心によるものだった。90年代に入り、ワークショップやアーティスト・イン・レジデンスなど、制作過程を来場者に見せたり、地域住民を巻き込んで制作する方法が確立すると、教育普及活動に力を入れ始めた美術館の動向とも相まって、市民参加型の企画が重視されるようになった。近年では、作家が地域住民と協働することで地域振興を目指すようなプロジェクトも少なくない。

アートスケープ/artscape (大日本印刷株式会社運営の美術館・アート情報のWebマガジン) より

令和4年8月24日(水) 成田市立久住中学校  
八街市立八街中央中学校 玉造 明男

これは、令和2年（2020年）、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった、第73回全国造形教育研究会／第60回関東甲信越静地区造形大会／第71回千葉県教育研究会造形教育部会印旛大会で発表を予定していた提案資料を編集し、令和3年（2021年）印旛地区教育研究集会 図工・美術分科会で紙上提案され、さらに編集したものを、同年11月6日、第71次千葉県教育研究集会（第6分科会 美術教育）において、オンラインで提案されたものである。

資料の多くの部分が、昨年度まで所属していた八街市立八街中学校美術科の目線で記載されているため、次ページ以降は、所属校名も含め、昨年度の提案資料のままにしている。

## アートプロジェクトの視点を取り入れて地域と共に成長する美術教育を実現する ～アートプロジェクト八街ミュージアム～

### 1. 設定理由

新学習指導要領において「社会」「地域」「連携」というワードは、頻繁に使われている。学校教育と社会との関わりは、益々重要視されてきている。

地域とアートが連携したアートプロジェクトは、まさにこれからの学校教育がめざす方向に合致している。限られた授業時間の中だけで図工・美術科の学習を完結させるのではなく、身に付けさせたい力のために、授業外・学校外の時間や場所を柔軟に連動させて、効果的な学習を行う必要があり、これにより図工・美術科は、学校内だけでは身に付かない様々な力が身に付き、学び多い教科となり、誰もが認める教育的価値の高い重要な教科となると考える。

### 2. 研究仮説

作品展示が中心の地域型展覧会八街ミュージアムにアートプロジェクトの視点を取り入れることで、美術教育と街の双方に利のある地域連携が実現するだろう。

美術教育を学校内に閉じず、授業にアートプロジェクトの視点を取り入れることで、《表現（制作）》《発表（展示）》《鑑賞》が学校を含む街全体で循環する、より質の高い学びが実現できるだろう。

### 3. 研究内容

- 八街ミュージアムの見直し
- 「未来のピーちゃんナッチャン（小学校4年）」《発表》を前提とした《表現》
- 「八街駅展プロジェクト（中学校1～3年）」《表現》《発表》《鑑賞》を連動
- 「八街ミュージアム展の鑑賞（中学校2年）」地域型展覧会を利用した《鑑賞》

### 4. 結論

- 様々な地域で実践されているアートプロジェクトは学校や美術が街と関わる際の参考となり、八街ミュージアムにアートプロジェクトの視点を取り入れたことで、美術を軸とした地域連携は、これまでにない広がりを見せた。
- アートプロジェクトの視点は、新学習指導要領における授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」と共通することも多く、授業改善にも大いに役立った。
- 《表現》《発表》《鑑賞》を学校を含む街全体で循環させることを意識したことで、既存の題材も、より学び多い題材になった。

アートプロジェクトの視点を取り入れて地域と共に成長する美術教育を実現する  
～アートプロジェクト八街ミュージアム～

## 1 設定理由

新学習指導要領において、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。」(文部科学省 HP 2018/07/09 新学習指導要領について資料4 これからの教育課程の理念)、「学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子どもなど、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。」(中学校学習指導要領 第1章総則 第5の2のア)など、「社会」「地域」「連携」というワードは頻繁に使われている。学校教育と社会との関わりは、益々重要視されてきている。

地域とアートが連携したアートプロジェクトは、まさにこれからの学校教育がめざす方向に合致している。限られた授業時間の中だけで図工・美術科の学習を完結させるのではなく、身に付けさせたい力のために、授業外・学校外の時間や場所を柔軟に連動させて、効果的な学習を行う必要がある、これにより図工・美術科は、学校内だけでは身に付かない様々な力が身に付く、学び多い教科となり、誰もが認める教育的価値の高い重要な教科となると考える。

### これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

#### <社会に開かれた教育課程>

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

出典：文部科学省HP 2018/07/09 新学習指導要領について資料4

## 2 研究仮説

### 【仮説1】

作品展示が中心の地域型展覧会八街ミュージアムにアートプロジェクトの視点を取り入れることで、美術教育と街の双方に利のある地域連携が実現するだろう。

〈研究の流れ〉

○八街ミュージアムの見直し

- ①人との対話           ・商店街の方々・街の方々・アートプロジェクト経験者(印旛の先生)
- ②アートプロジェクトを理解する  
                          ・アーカイブセンター「アーツカウンシル東京 ROOM302」(東京都)  
                          ・書籍「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年」  
                          「千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN)」  
                          ・Web「Wikipedia」・Webマガジン「アートスケープ/artscape」
- ③アートプロジェクトを体感する  
                          ・「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」(新潟県)
- ④八街ミュージアムを見直す

### 【仮説2】

美術教育を学校内に閉じず、授業にアートプロジェクトの視点を取り入れることで、《表現(制作)》《発表(展示)》《鑑賞》が学校を含む街全体で循環する、より質の高い学びが実現できるだろう。

〈実践〉

○《表現(制作)》《発表(展示)》《鑑賞》を学校を含む街全体で循環させる

- ①「未来のピーちゃんナツちゃん(小学校4年)」《発表》を前提とした《表現》
- ②「八街駅展プロジェクト(中学校1～3年)」《表現》《発表》《鑑賞》を連動
- ③「八街ミュージアム展の鑑賞(中学校2年)」地域型展覧会を利用した《鑑賞》

## 3 研究内容

(1) 実態

①印旛地区の図工・美術

印旛地区では長年、地域連携(佐倉市の佐倉学、成田市成田山での写生会や参道学習、八街市の幼小中高連携教育)にとりくんできた。千葉県立美術館との連携(人事交流、学芸員体験、ワークショップ参加)、千葉大学との連携(授業研修会や研究会の講師依頼、長期研修)も盛んである。印旛郡市中学校美術部展【佐倉市立美術館×中学校美術部】(1997年～)、八街ミュージアム【八街市内各所×小中学校】(2009年～)、成田アート博覧会【成田山表参道仲之町商店街×小中学校】(2011年～)、美術部実践交流会 in 千葉大学【千葉大学×中学校美術部】(2012年～)など、人や作品が学校外で交流する活動が、次々に誕生し、継続している理由は、印旛が、学校の枠を超えた連携を当たり前経験している先生が多い地区だからとも言える。



### ③造形活動のつながりを研究する研究会【部会D】

千葉県教育研究会造形教育部会には6つの分科会が存在し、毎年、千葉県内の小中学校が、様々な視点で造形教育を見つめ、研究を行っている。そのひとつ【部会D「造形活動のつながり」】は、主に地域連携に関する様々な研究を行ってきた。それぞれの街で可能な地域連携を、教員の専門性や経験や蓄積された授業の引き出しや、それまでに築き上げてきた地域とのネットワークなどを駆使して形にしてきた多くの実践は、単なる地域連携を目指したものではなく、美術は「社会にどんな変化を及ぼすか」「社会にどう貢献できるか」「社会と繋がる、どんなツールになるのか」「社会を豊かにし、街を豊かにし、自分の生活や人生を豊かにするか」を、真剣に考える指導者の熱い思いが土台にあったように感じる。この分科会の部長・副部長は長い間印旛地区の先生（主に八街市の先生）が務めている。地域連携は印旛地区の先生方が千葉県内の先生方と共に継続的に研究を重ねてた分野であると言える。

八街ミュージアムは、2009年（第1回開催直後）から数年間、【部会D】をはじめとする、いくつかの研究会で発表を行ってきた。当時、研究会に参加していた大学の先生から「八街ミュージアムは、いいアートプロジェクトになり得る」と言っていたが、この時点でアートプロジェクトの概念を理解している中学校美術教員は印旛には少なく、そこから長い間、この言葉の意味を理解できぬまま、八街ミュージアムを継続し続けてきた。

## （2）八街ミュージアムの見直し【仮説1について】

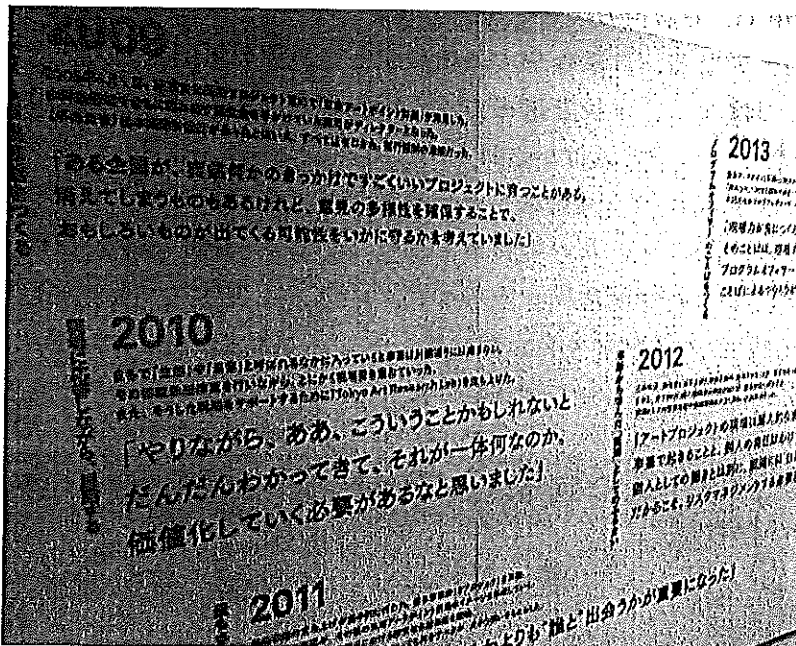
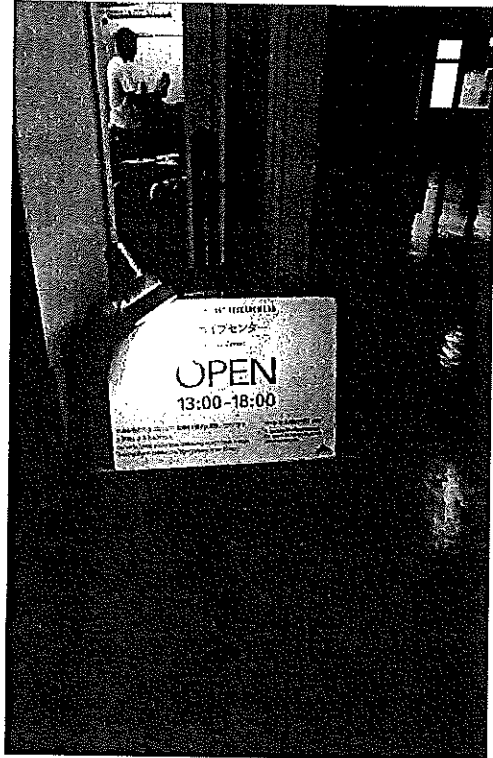
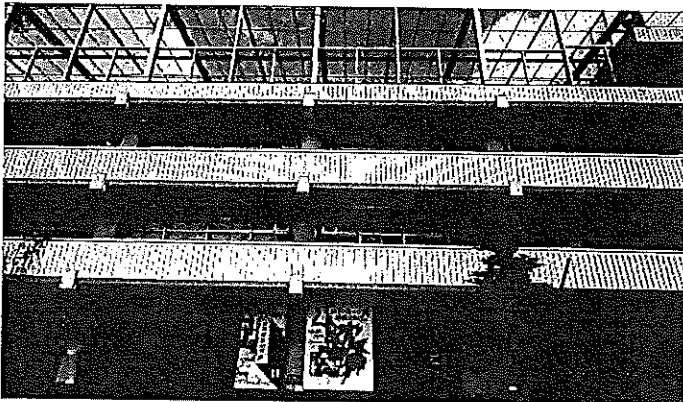
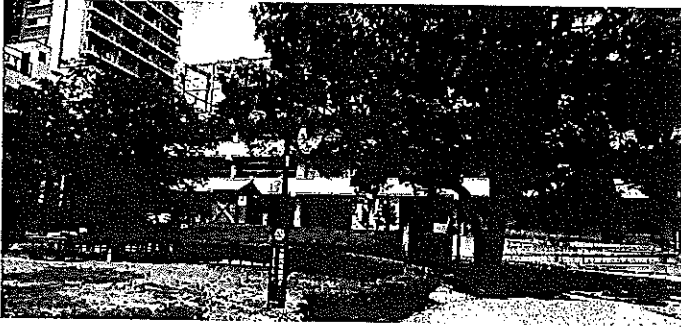
### ①人との対話（情報収集）

2018年2月、八街駅南口商店街より新たなシャッター画制作の依頼を受け、八街中学校美術部による「第2期シャッター画制作」がスタートする。学校（教員と生徒）が、毎週（土曜日の9:00～12:00）商店街に足を運ぶことで、商店街の方々との対話が日常化する。人通りの多い表通りのシャッター画制作のため、街の方々との会話がさらに増えた。シャッター画制作に至る経緯を聞かれることや、中学校の授業の様子を聞かれることもあり、美術教育の目的を街の人に伝える機会にもなった。今回、かつて、その場所にあったお店のイメージで絵を描いていることもあり、過去の思い出を語ってくれる方、昔の写真を見せてくれる方もいた。さらに会話の中で、商店街の現状と課題、八街ミュージアムの現状と課題、アートが街と関わる新たなアイデアなど、自然な形で情報収集や意見交換もできた。シャッター画制作は単に絵を描くことではなく、学校と街の方々との重要な交流の場であり、地域と学校の連携を推進する重要な活動であると気付かされた。

2018年8月、佐倉市立美術館で教職員展（美術部展と同時開催）が開催された。教職員展は、作家としての顔を持つ先生方が集まり、互いの作品を通じて、世代を超えて知り合う機会となる。大学での専門分野や、現在の作家活動、参加団体や展覧会の情報などを知る機会にもなる。ここで新潟県の大学でアートプロジェクトを専攻していた先生と知り合いになり、アートプロジェクトに関する様々な話を聞くことができた。八街ミュージアムの課題や、今後の構想について伝え、アドバイスをもらうこともできた。大学の授業の中でおこなったという、古民家を街の不要品を使ってギャラリーに改装し、近隣の喫茶店と提携してアートカフェを運営した話は、よいヒントになった。

②アートプロジェクトを理解する

アートプロジェクトを理解するために、千葉大学の先生からいただいた「千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN)」に関する書籍や、Web上の資料 (HP、Blog、Web マガジン、報告書、論文) を読むことから始めた。「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年 (アーツカウンシル東京)」は、アートプロジェクトが街に受け入れられるまでの失敗と反省の歴史が詳細に記録されており、様々なヒントを得ることができた。アートプロジェクト等のアーカイブ資料を公開している「アーツカウンシル東京 ROOM302 (東京都千代田区「アーツ千代田 3331」3階)」を訪れ、全国各地で開催されたアートプロジェクトの資料 (冊子、スタンプラリー等) を閲覧した。



2013  
 アートセンター「3331 Art Space Chiyoda」は、旧千代田区立練成中学校を改修して2010年に誕生したアートセンター。3階にあるアーツカウンシル東京のアーカイブセンター「ROOM302」には、全国のアートプロジェクトの資料や、アートプロジェクトに関する書籍が閲覧できる。



### ③ アートプロジェクトを体感する

3年に一度開催されている世界最大規模の国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」が開催されていたため、2018年8月、夏期休業を利用して新潟県に向かった。3日間滞在し、街全体を使ったアートプロジェクトを体感しながら、2ヶ月後に迫った第10回八街ミュージアムに向けたヒントを探した。



### ④ 八街ミュージアムを見直す

第10回八街ミュージアムに向けて、市内小中学校12校の図工・美術主任の先生方や、展示に関わる街の人に、これまでに得た情報等を伝え、本研究の方向性を共有した。

八街ミュージアムは、これまでの「商店街に作品を展示する展覧会」から次の段階「地域と学校が共につくる“アートプロジェクト”」に向かいます。“アートプロジェクト”という言葉を知らない方も多いかと思いますので、本などから印象的な言葉を拾いましたので、お読み下さい。

#### アートプロジェクトとは

- ・美術館やギャラリーの「外部」で開催されるアート活動。
- ・作品展示にとどまらず、そのプロセスや様々な人々との関わりを重視する。
- ・同時代の社会のなかに入り込んで、そこに存在する個々の状況に関与しながら、その状況に何らかの変容をもたらそうと試みる表現活動。
- ・日々のつながりの中から偶発的に様々な活動が生まれることを重視する。
- ・ある特定の人だけがもつ「才能」ではなく、誰もが必ずもっている「創造性」(creativity)を重要視する。参加者すべてのなか存在する創造性が、何らかの方法で、本人がこれまで経験したことのないような形で発露し、そしてそれらが集まると、一人で作るものよりも大きなものに発展する可能性がある。

出典：『日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年』アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

2018/10/08 市内小中学校12校の図工・美術科主任宛てのFax

上の文をもとに、本研究における〈アートプロジェクトの視点〉を、以下のように整理した。

#### 〈八街ミュージアム見直しの視点〉

- 視点-1：美術館やギャラリーなど既存の展示スペースの外に活動を広げているか
- 視点-2：作品展示にとどまらず、プロセスや様々な人との関わりを重視しているか
- 視点-3：街や学校や美術教育に、何かしらの変容をもたらしているか
- 視点-4：偶発的に様々な活動が生まれることを重視しているか
- 視点-5：特定の人だけがもつ才能ではなく、誰もが必ずもっている創造性を重視し、引き出しているか
- 視点-6：関わる双方に利があるか（Win-Winの関係／生徒・学校・商店街・市民・アーティスト…）

⑤実践

第10回(2018年)は、ホームページ開設、倉庫のギャラリー化、行事の横断幕を街に飾る「布」プロジェクト、市民参加型のシャッター画プロジェクト、スタンプラリー参加者に特製シール配付などが始まった。

翌年、第11回(2019年)は、展示場所を市内全域への拡大、オープニングセレモニーとして演劇祭との連携、美術教員やアーティストによる個展の開催、八街ミュージアム展を利用した鑑賞授業の実施、市民文化祭との連携、クロージングトークイベントの開催などを行った。

さらにコロナ禍における第12回(2020年)は、ストリートピアノプロジェクトや、街の魅力を可視化する「YACHIMATA漫画化プロジェクト」の立ち上げた。街での作品展示とWeb展覧会を両立し、展示の規模は縮小しながらも、アートと街の連携を模索しながら、着実に前進を続けている。

八街ミュージアムにアートプロジェクトの視点を取り入れたことで、今まで以上に人とのつながりを大切にするようになった。多くの先生方、商店街の方、街の方が主体的に関わり、積極的にアイデアを出したことで、様々な広がりを見せている。

# YACHIMATA MUSEUM

第11回 八街ミュージアム展

## EXHIBITION VOL.11

2019.10.14mon - 11.3sun

八街駅南口商店街/小谷城の里/キースアイランド/八街市内各所



八街ミュージアム(やちまたミュージアム)は美術館のない八街市において、街全体を大きな美術館に見立てたアートプロジェクトです。「八街市全体がミュージアム」というコンセプトのもと、11月の八街大祭にあわせて市内小中学校の児童・生徒が制作したアート作品数百点が街を彩る約半月の展覧会八街ミュージアム展の他、年間を通して市内各所で様々なミュージアム活動を行っています。2007年の第1回は、八街駅南口商店街を学区に持つ八街市立八街中央中学校区による、八街駅南口商店街の名店舗に小中学校の児童・生徒が制作したアート作品を展示する展覧会でした。2015年の第7回より市内小中学校による展覧会になり、さらに2018年の第10回よりアートプロジェクトとしての可能性を追求し始め、会場も八街駅南口商店街を中心とした八街市内の様々な場所に広がっています。

会場：八街中央校/八街中央中校/八街中央小校/八街中央中校/八街中央小校/八街中央中校/八街中央小校/八街中央中校/八街中央小校  
 協力：八街駅南口商店街協議会/八街市立八街中央中学校/八街市立八街中央小学校/八街市立八街中央中学校/八街市立八街中央小学校

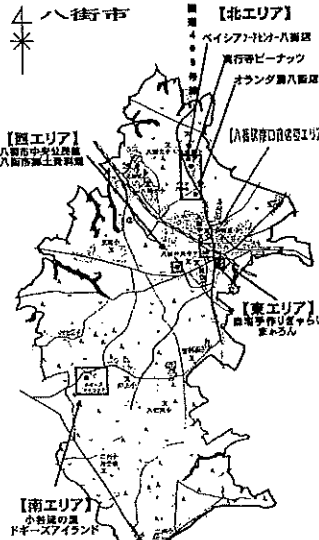
### 八街アートウィークを飾り、8つのポイント“2019秋”

- 1 「八街市」の看板を見たら、そこはアートな街の入り口!**  
 街の看板を見たら、そこはアートな街の入り口! 街の看板を見たら、そこはアートな街の入り口!
- 2 八街を象徴するアートな建ても八街駅!**  
 街の「看板」を象徴する「八街駅」もアートな建物! 街の中には、数々のアート作品が点在している!
- 3 まだまだある!“アートなもの”や“アートな場所”**  
 街中の「アートプロジェクト」/市役所の「芸術祭」/商店街の「アートプロジェクト」/市役所の「芸術祭」/商店街の「アートプロジェクト」
- 4 小学校の図工室、中学校の美術室は、アート作品の宝庫!**  
 小学校の図工室、中学校の美術室は、アート作品の宝庫! 小学校の図工室、中学校の美術室は、アート作品の宝庫!
- 5 壁やシャッターは巨大なキャンパス!**  
 壁やシャッターは巨大なキャンパス! 壁やシャッターは巨大なキャンパス!
- 6 市内最大級のステージ&展示スペース“八街中央公民館”**  
 アートなイベント、ぞくぞく開催予定! 市内最大級のステージ&展示スペース“八街中央公民館”
- 7 まだある!アートなスペース!**  
 まだある!アートなスペース! まだある!アートなスペース!
- 8 その他、この時期に開催されるイベント**  
 その他、この時期に開催されるイベント 市内最大級のステージ&展示スペース“八街中央公民館”

2019年8月末より市内各所・県内美術館等で配布された第11回八街ミュージアム展のチラシ。八街ミュージアム展開催期間の前後には、若きアーティスト(市内小中学校の児童・生徒)が活躍する「演劇祭」「作品展」「音楽祭」など様々な文化的行事が多く開催されるため、10・11月の約8週間を「八街アートウィーク」と名付けて、裏面に掲載した。

小学校の図工室，中学校の美術室は，アート作品の宝庫！

学校は数千人の小きアーティストたちが，日々新しい作品を生み続ける場所！  
その素敵な作品を，先生と友達とおまの人だけがあるのはもったいない！  
だから八街の小中学生の作品は後に出る！それが八街ミュージアム展！



- スタンプラリーのルール**
- ①スタンプラリーのスタンプをすべて集めて，集まったスタンプをいかに早く集めよう。
  - ②お店に入るとスタンプを貼る時に「こんにちは」と挨拶しよう。
  - ③お店の人がしつこく話したり，迷惑中の時は，静かに待ちましょう。
  - ④「八街ミュージアム展の作品を鑑賞してください。よろしいでしょうか」と，お店の人に挨拶しよう。
  - ⑤作品をじっくり鑑賞してから，お店の人に「スタンプが貼れますか」と，丁寧にお願いしよう。
  - ⑥お店の絵や展示作品を壊したりしないように気をつけよう。
  - ⑦絵の汚損などの被害に遭わないように気をつけよう。
  - ⑧お店を出る時は「ありがとうございました」と，きちんとお礼を言おう。

最新の情報はWebでチェック  
公式HP  
http://hachijemuseum.jp/11stamps  
公式Twitter  
https://twitter.com/hachijemuseum

**目撃！スタンプラリーマスター**  
このスタンプラリーをいかに早く集めよう。そのために，お店の人に挨拶をしよう。そのお礼として，お店の人にスタンプを貼ってもらおう。お礼として，お店の人にスタンプを貼ってもらおう。お礼として，お店の人にスタンプを貼ってもらおう。

名前 \_\_\_\_\_

学校名 (小学校/中学校/高等学校/大学/その他) \_\_\_\_\_

年 月 \_\_\_\_\_

# YACHIYO MUSEUM

## 第11回 八街ミュージアム展

### 2019.10.14 Mon - 11.3 Sun

八街駅前商店街/小谷流の里/ドーズアイランド/八街市内各所

八街駅前商店街/小谷流の里/ドーズアイランド/八街市内各所

八街駅前商店街/小谷流の里/ドーズアイランド/八街市内各所

# スタンプラリー

スタンプラリーを楽しみながら，商店街をまわってみよう！  
お店の展示で八街ミュージアム展の作品を鑑賞すると，スタンプを1つ押してもらえます。さらに商品の購入や，入場料を払った際の購入券で，もう1つボーナススタンプをもらえるお店もありますよ。

**【西エリア】**

八街中央公民館 043-443-3225  
祝日開館，開館時間はそれぞれです

【西-1】 八街市歴史資料館 043-443-1726  
【開館時間】 8:00-17:00 (休館日) 月【中央小休館】

【西-2】 大木一丸 美術画廊  
Yachimate Drama Festival  
【開館時間】 10月12日(日) 12:30開演 ~17:05  
【開演時間】 11月1-3日 (金-日) 9:00-16:00

【西-3】 八街市立児童館 4年学級美術展  
【開館時間】 11月1-3日 (金-日) 9:00-16:00

【西-4】 八街市立文化祭 展示会場  
【開館時間】 11月1-3日 (金-日)

【西-5】 八街市立文化祭 展示会場  
【開館時間】 11月1-3日 (金-日)

【南エリア】

小川ピーアーツ 043-443-3255  
【開館時間】 8:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【南-1】 セネラルーム (インフォメーションセンター2階)  
10:00-17:00 (受付日) なし  
※スタンプラリーのスタンプを貼るのに使えます

【南-2】 フォーマーズ 10:00-18:00 (受付日) なし

【南-3】 パーカール 8:00-18:00 (受付日) なし

【東エリア】

【東-1】 昭和手習い堂のらら 10:00-16:00 (受付日) 10月20日(土) ~11月4日(日) 10:00-16:00 (受付日) 10月20日(土) ~11月4日(日) 10:00-16:00 (受付日)

**【八街駅前商店街エリア】**

E-0 (八街市) 八街市歴史資料館 043-443-1726  
【開館時間】 8:00-17:00 (休館日) 月【中央小休館】

E-1 写真とカメラのオオノ 043-443-3968  
【開館時間】 9:00-19:00 (受付日) 日【中央小休館】

E-2 サンエトール 043-443-1151  
【開館時間】 7:30-18:30 (休館日) 日【中央小休館】

E-3 須田屋 043-444-0418  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

E-4 (いじり屋) 043-444-0007  
【開館時間】 10:00-17:00 (休館日) 日【中央小休館】

E-5 山田商店 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-18:30 (休館日) 日【中央小休館】

E-6 小川川 043-444-0067  
【開館時間】 11:00-20:00 (休館日) 日【中央小休館】

E-7 (いじり屋) 043-444-0007  
【開館時間】 10:00-17:00 (休館日) 日【中央小休館】

E-8 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

E-9 コットンイトウ 043-444-0174  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北エリア】

【北-1】 ペインシア/ペインシア 043-440-8888  
【開館時間】 9:00-20:00 (受付日) なし  
【休館日】 日

【北-2】 写真手習い堂 043-444-0807  
【開館時間】 9:00-18:00 (受付日) なし  
【休館日】 日

【北-3】 オランダ量販店 043-444-8311  
【開館時間】 9:30-20:00 (受付日) なし  
【休館日】 日

【北-4】 コットンイトウ 043-444-0174  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-5】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-6】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-7】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-8】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-9】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-10】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-11】 須田屋 043-444-0039  
【開館時間】 8:00-19:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-12】 須田屋 043-312-9321  
【開館時間】 10月18日(日) ~11月3日(日) 11:00-18:00 (受付日) 土日

【北-13】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-14】 須田屋 043-312-9321  
【開館時間】 10月18日(日) ~11月3日(日) 11:00-18:00 (受付日) 土日

【北-15】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-16】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-17】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-18】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-19】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-20】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-21】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-22】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-23】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-24】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-25】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-26】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-27】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-28】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-29】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-30】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-31】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-32】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-33】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-34】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-35】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-36】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-37】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-38】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-39】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-40】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-41】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-42】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-43】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-44】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-45】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-46】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-47】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-48】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-49】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-50】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-51】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-52】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-53】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-54】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-55】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-56】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-57】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-58】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-59】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-60】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-61】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-62】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-63】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-64】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-65】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-66】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-67】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-68】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-69】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-70】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-71】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-72】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-73】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-74】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-75】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-76】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-77】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-78】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-79】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-80】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-81】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-82】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-83】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-84】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-85】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-86】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-87】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-88】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-89】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-90】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-91】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-92】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-93】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-94】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-95】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-96】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-97】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-98】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-99】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

【北-100】 須田屋 043-444-1011  
【開館時間】 9:00-18:00 (休館日) 日【中央小休館】

2019年10月に開催した，第11回八街ミュージアム展のスタンプラリー用紙。この年，八街駅前商店街以外の協力店舗が多数加わったことや，八街市民文化祭（八街市中央公民館）と連携したことなどにより，昨年度のA4両面印刷から，A3両面印刷（二つ折り）になった。

## 八街ミュージアムの変化（時系列 - 横）

■作品展示中心 ～第9回2017年(H29)	■アートプロジェクトの視点で見直す 第10回2018年(H30)	第11回2019年(R1)	■コロナ禍の規模縮小 第12回2020年(R2)
---------------------------	-------------------------------------	---------------	-----------------------------

### 運営関係の変化

主催：印旛地区教育研究会 第四部会図工・美術研究部	
協力：八街駅南口商店街振興組合／八街市中学校美術部顧問会	
協力：小谷流の里ドギーズアイランド 協力：八街市の文化芸術振興を考える会	
後援：八街市教育委員会	後援：八街市教育委員会（八街教育創生『MOTÉ』）

### 展示関係の変化

展示（南口商店街）	展示（南口商店街） ※1 倉庫を展示スペースにし市内アーティストと合同展示 ※2 市内書家による看板	展示（南口商店街エリア） ※3 アーティスト「バルサミコヤス個展」と併催、千葉テレビの取材あり	展示（南口商店街）
	展示（西エリア）まかろん	展示（西エリア）まかろん ※4 教員「玉造明男個展」と併催（本展ポスター原画等）	
		展示（東エリア）公民館他・美術部展開催 ※5 八街の文化遺産を巡る絵と連携 ※6 市民文化祭等と連携	
		展示（南エリア）小谷流の里ドギーズアイランド	
		展示（北エリア）	
展示（商工会議所）		展示（商工会議所）「ギャラリー拓道」として通年で運営	
展示（市民ギャラリー）美術部展		展示（市民ギャラリー） ※7 教員「佐藤誠一郎個展」（小学校社会科資料集の原画等）	展示（市民ギャラリー）美術部展

### 鑑賞関係の変化

マップ（白黒）	マップ（カラー）	マップ（カラー）を全小中学生に配布
スタンプラリー		感想のみ記入
	特製シールプレゼント	
		賞状（八街愛賞、など）
		CM（DVD）
		鑑賞授業（八街中2年3時間展開）

### その他

HP、Twitter開設、八街市教育センターとリンク	
布プロジェクト（市内中学校、通年）	
シャッター画プロジェクト（八街中学校美術部、市民参加型）	
アーティスト連携※1※2	アーティスト連携※3～※7
	クロージングトークイベント Facebookにてライブ配信
	お絵描き傘プロジェクト（商店街振興企画）
	演劇祭と連携（12月に延期）
	ストリートピアノプロジェクト（市民団体企画、美術部イベント）
	YACHIMATA漫画化プロジェクト （新人賞応募・画材支援）

## 八街ミュージアムの変化（時系列・縦）

- 2017年以前 八街駅プロジェクト（写生会 2015年～、THE八街駅展 2016年～）●
- 2018年2月 シャッター画プロジェクト（10年ぶり、通算7枚目～）【八街駅南口商店街が依頼】
- 2018年8月 お絵かき傘プロジェクト（夏祭りに市内中学生のアート傘）【八街駅南口商店街が依頼】
- 2018年9月 ホームページ開設●
- 2018年10月 第10回八街ミュージアム（12校約300作品展示）※ Web鑑賞も可能  
西エリア（自宅手創りぎやらりーまかろん）※八街駅南口商店街以外で初の展示場所●  
特設ギャラリープロジェクト（倉庫を期間限定ギャラリーに改装）●  
街を包む“布”プロジェクト（市内中学校行事の横断幕で街を彩る）●  
特製シール配付（スタンプラリーの商品）【八街東小の先生の案】
- 2018年12月 ギャラリー拓道プロジェクト（年間を通したギャラリーの運営）【協力店舗の案】
- 2019年1月 Twitter開設●
- 2019年4月 「八街ミュージアム・アートなものの達紹介特設サイト」開設【市民】
- 2019年10月 八街ミュージアム展CM（12校に配布）【八街東小の先生の発案・制作】
- 2019年10月 第11回八街ミュージアム展（市内各所に12校約400作品展示）※ Web鑑賞も可能  
演劇祭の開催【八街市教育委員会・演劇部顧問会の企画】  
※オープニングセレモニーとして10月開催予定だったが、台風により12月に延期  
北エリア（八街北中学校区の協力店舗）開拓【朝陽小と八街北中の先生】  
東エリア（中央公民館）市民文化祭と連携【八街市の文化芸術振興を考える会の案】  
東エリア（中央公民館）美術部展の開催【八街市の文化芸術振興を考える会の案】  
南エリア（小谷流の里ドギーズアイランド）【八街市教育委員会の紹介】  
シャッター画プロジェクト（市民参加型「最後の本屋さん」）●  
美術教員やアーティストによる3つの個展の開催  
・玉造明男個展（会場：自宅手創りぎやらりーまかろん）【ぎやらりーまかろんの案】  
・佐藤誠一郎展（会場：八街駅市民ギャラリー）●  
・バルサミコヤス個展（会場：Nats Up?）【Nats Up?の企画】  
開催中の八街ミュージアム展を利用した鑑賞授業（八街中学校2年生）を実施●
- 2019年11月 クロージングトークイベントの開催（会場：Nats Up?）【Nats Up?の企画】  
八街愛賞（八街愛にあふれる作品や企画に対し賞状を授与）【八街東小の先生の案】
- 2020年1月 ストリートピアノプロジェクト（八街中美術部制作）【市内音楽団体が依頼】
- 2020年4月 八街駅プロジェクト（動画配信授業「八街駅」全5回を八街中HPより配信）●
- 2020年10月 YACHIMATA 漫画化プロジェクト（街の魅力を可視化、新人賞応募、画材支援）●
- 2021年10月 第12回八街ミュージアム展（市内に8校約200作品展示）※ Web鑑賞も推奨
- 2021年1月 ストリートピアノを八街駅南口商店街に3ヶ月設置【市内音楽団体が運営】
- 2021年4月 ストリートピアノを大型商業施設に設置【市内音楽団体が運営】

●は玉造の企画、【 】は玉造以外の企画。多くの人に関わり、様々な活動が生まれたことがわかる。

(3) 《表現》《発表》《鑑賞》を学校を含む街全体で循環させる【仮説2について】

八街ミュージアムは、図工室や美術室で日々生み出されている多くの作品に《発表》の場を与えたいという先生や街の人々の想いからスタートした。コンクールなど既存の《発表》の場だけに頼るのではなく、それまで無かった《発表》の場を生み出していく主体的な《発表》の形である。《発表》の時期や場所、規模や内容も自由に変化させることができるため、自由に授業と連動させることも可能であり、《表現》《発表》《鑑賞》の3つを相互に関連付けながら、街や人を巻き込んで展開している。独自のホームページ（2018年より）を運営することで、Web上での学習にも柔軟に対応でき、今後、様々な広がりも期待できる。

以下の①から③は、八街東小学校、八街中学校で行った、八街ミュージアムに関連した授業である。《表現》と《鑑賞》に、3つめの重要な要素《発表》を加え、この《表現》《発表》《鑑賞》を学校を含む街全体で循環させる。また、八街ミュージアムに関連した授業を講師を招く校内授業研修会で行うことや、研究会で発表することを積極的に行うことで、多くの先生によって検証され、改善することができる。

- ・《表現》《発表》《鑑賞》の3つを相互に関連付けながら、学習計画の中に配列していく。
- ・研究発表会や授業研修会を積極的に活用することでPDCAサイクルを確立し、より質の高い学びを実現する。
- ・街全体が美術館であるという考えのもと、今まで主に学校内で行われてきた教育活動を街や人を巻き込んで展開する。

《発表》

学校を含む  
街全体

《表現》

《鑑賞》

①「未来のピーちゃんナツちゃん（小学校4年）」《発表》を前提とした《表現》

作品をどこに飾り、誰に見てもらおうのかという相手意識を明確にもたせ、《発表》を前提とした《表現》をおこなう。「未来のピーちゃんナツちゃん」は、街の特産品である落花生と街のキャラクターに焦点をあてた題材である。落花生販売店からもらった落花生の殻を使って《表現（製作）》を行い、完成した作品は落花生販売店など地域で《発表（展示）》する。

2019.11.29 第70回千葉県教育研究会造形教育研究大会【部会D】提案資料

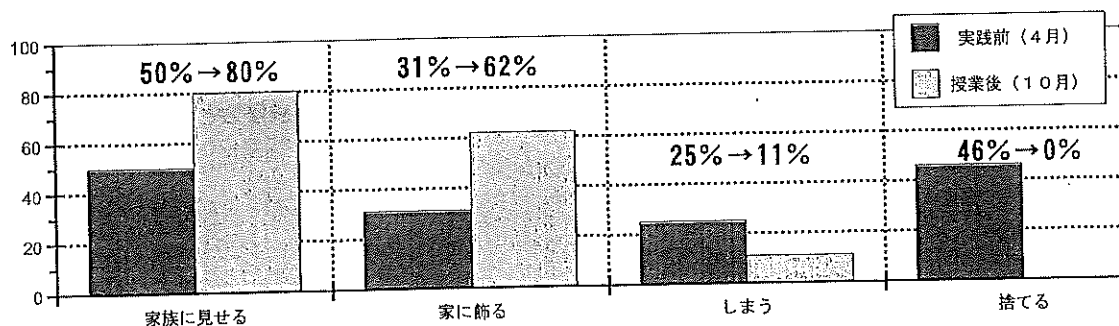
「地域とのつながりを実感し表現する児童の育成～作品を通してつながるわたしとみんな～」

八街市立八街東小学校 森川 琢也

学校での図画工作の授業は、作品自体をつくるのが学習の目的になっている場合が多く、作品づくりを終えた後、誰かに作品を見せたり、どこかに飾ったりするといった考えをもつ児童は多くない。そこで各題材において、自分の作品をどこに飾り、誰に見てもらおうのかという相手意識を明確にもたせて学習にとりくませるようにした。児童が作品を通して様々な人との結びつきを感じ取ることができるように、作品を見てもらおう対象と飾る場所は、題材ごとに変えていく。対象は「家族」「学級の友だち」「学年や全校の友だち」「先生方」「地域の方」など自分たちの住む八街市に関わる様々な人、場所は「家庭」「教室」「校内多目的ホール」「八街図書館」「八街商店街」とし、多くのつながりを生み出すことができるように設定した。また作品を見てもらおう際には、感じたことを感想カードに記入してもらうようにした。

相手意識をもち学習にとりくんだことで、これまで以上に丁寧につくったり、アイデアをいっそう練りながら上手につくりたいという気持ちをもったりして作品づくりにとりくむ児童が増えた。作品を見た人の気持ちを知ること、地域の方が自分たちと関わり合い、応援してくれることや、関心をもち見守ってくれていることに気付くことができ、自分が市内の多くの人と結びついていることを実感することができた。作品を見た相手から感想をもらうことで生まれた「もっと見てほしい」「ほめてほしい」などといった気持ちは、次の作品づくりの意欲につながった。

つくった作品は、その後どうしますか（八街東小学校4年 男子20人、女子15人、計35人）



結論：見てもらおうことや飾ることを意識して作品をつくと、

持ち帰った後に作品を捨てる確率は低くなる

②「八街駅展プロジェクト（中学校1～3年）」《表現》《発表》《鑑賞》を連動

JR八街駅は、八街市の「八」と、八街市の特産品である落花生をモチーフとした美しいデザインの駅舎である。「八街駅展プロジェクト」は、八街市の象徴的な建物である八街駅に焦点をあてて《表現》《発表》《鑑賞》を行う、様々なとりくみの総称である。

《表現》：【1年生「写生会・八街駅を魅力的に描く」(14時間)】

JR八街駅は八街市の「八」と、八街市の特産品である落花生をモチーフとした美しいデザインの駅舎です。2015年始まった八街中学校1年生約200人による八街駅での写生会「八街駅を魅力的に描く」は、新入生が美術科で最初に取り組み長期題材です。自分の住む街の象徴的な建物「八街駅」のデザイン性の高さについて知り、その魅力を表現します。また、この題材で《表現》《発表》《鑑賞》の循環について意識させます。

- ・八街中学校で制作する作品は、基本的に《発表》を前提としていること、《鑑賞》者がいることを伝え、意識させる。
- ・授業の導入で、「THE八街駅展」の様子を映像で見せ、完成後の作品の一部が駅のギャラリーで《発表》されることを伝える。
- ・先輩の作品が自分たちの制作につながり、自分たちの作品も後輩の制作につながることを知り、《表現》《発表》《鑑賞》の循環を意識する。
- ・《表現》の途中に、目の前の《鑑賞》者に作品をみせながら制作意図を言葉で伝える、学級内《発表》を全員が行う。
- ・作品完成後に作品解説文(展示のキャプションに使用)を書き、自分の《表現》を《鑑賞》者に、文章で伝える。
- ・街で《発表》(展示)が行われている時期は、授業と関連付けながら積極的に《鑑賞》を促し、他者の《表現》に関心を高く持たせる。

2015年度 第1学年 美術科学習指導案(一部抜粋)

1 題材名 心ひかれる風景 一八街駅を魅力的に描こう (表現・風景画・水彩画)

2 題材について

本校は今年創立70周年を迎える伝統校である。JR八街駅から最も近い学校であり、駅北口から中学校まで続く直線道路は「花口ロード」と呼ばれ、歩道に並ぶプランターの花を、生徒が毎朝水をあげて育てている。JR八街駅の駅舎は、八街市の「八」と八街市の特産品である落花生をモチーフとした美しいデザインである。北口の駅前広場には、落花生のモニュメントや美しい馬の野外彫刻があり、アーチ状の空間が広がっている。しかし、その魅力は、この街で生活する私たちにも、日常的に駅を利用する人々にも、十分に理解されていないように感じる。

昨年度より、1学年の生徒約200人が、JR八街駅北口ロータリー付近でおこなう写生会をおこなっている。導入で透視遠近法や、近景と遠景を組み合わせた奥行きのある構図などを紹介し、屋外の広い空間で描く絵画の魅力を感じた後、写生会で鉛筆による下絵作成をおこなう。ここでは身近なものから造形的な美しさを感じ取る力や、対象を深く観察する力を育てると共に、公共の場で責任ある行動を取る大切さを学ぶ。さらに5月から7月末までの約10時間の授業で、水彩絵の具による彩色を行う。透明水彩絵の具の基本的な使い方や効果を学ぶと共に、様々な作品鑑賞から多様な表現を知る機会とする。本校が全教科・領域で研究している「学び合い」と、本校美術科の研究主題である「美術におけるコミュニケーション能力を育成し、作品に込められた想いを共有化する授業づくり」を授業の柱として、4人組で学び合う場面や、絵に込められた想いを発表する場面を多く設定する。また、表現及び鑑賞の様々な学習を通して、形や色彩がもたらす感情を理解し、対象のイメージをとらえることを指導(共通事項)し、豊かでのびやかな感性を育てたいと考える。

完成した作品は、コンクールへの出品を積極的に行う。生徒が心を込めて制作した作品を、美術室や校内掲示で完結することなく、多くの方に鑑賞していただく場を積極的に増やすことで、表現することの喜びはさらに増していくと考える。また駅構内にある市民ギャラリーにおいて、多様な表現で描かれた八街駅と共に、生徒それぞれの思いを記した作品解説や写生会の様子が伝わる写真を展示する「THE八街駅展」を開催し、駅利用者にも八街駅の魅力を伝える場とする。

学習指導要領に「表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。」とある。身近な駅を描く本題材は、八街駅の美しさや魅力を十分に体感する機会となり、また自分たちの生活する街に自信と誇りをもつことが期待できる地域題材である。地域に中学生の学習成果を積極的に発信し、生徒を取り巻く多くの人々に中学生が生き生きと学ぶ姿を知っていただくことは、地域に愛される学校づくりにつながると考える。


3 指導計画(14時間扱い)

時配	主な学習活動
2	①写生会について知り、当日の活動内容や約束事を理解する。 ②駅のデザインや美しさに興味をもち、作品の構想を練る。
2	③風景や建物から感じた美しさや印象を、鉛筆で表現する。 ※写生会 JR八街駅 平成28年5月16日(月)
2	④水彩絵の具の様々な表現を知る。
7	⑤風景や建物から感じた美しさや印象を、水彩絵の具で表現する。 ⑥仲間の作品に込められた様々な思いを知り、自分の作品に生かす。 ※発表会(一人づつ作品を提示しながら、駅で何を感じ、それをどう表現し、これからどう制作を進めるかを発表する。)
1	⑦仲間の作品のよさを感じ取る。



# 《発表》:【1年生「写生会」導入:「THE八街駅展」】

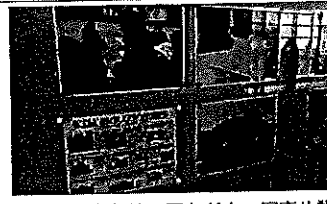
八街中学校1年生が写生会(5月初旬)を行う直前に、前年度の1年生が写生会で描いた作品による展覧会「THE八街駅展」を、八街駅市民ギャラリーで開催します。これから自分たちが制作する作品が、駅や街の魅力を多くの人々に伝えることを想像し、社会における美術の役割に気づきます。

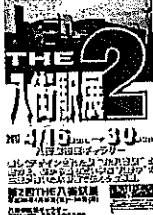


『THE八街駅展』  
2016年4月16日(土)～30日(土) 八街駅市民ギャラリー

JR八街駅は八街市の「八」と、八街市の前年2015年始まった八街中学校1年生約200人による八街駅での写生会。その作品を翌年駅に展示する展覧会。八街駅の魅力を利用する人々に知って(気づいて)もらうことが主たる目的。さらに入学直後の新1年生が、4月に展覧会を鑑賞し、5月に写生会を行うことで、鑑賞→表現→展示のサイクルをつくる。

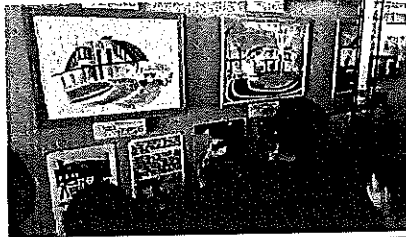
作品に取り付けられたキャプションは、写生会作品を街に展示する「成田アート博覧会」を参考にし、題名・氏名の他、作者による作品解説文が記載されている。その他、写生会当日の様子や、八街駅のように美しくデザインされた日本各地の駅などを、写真や説明文で掲示している。額装・展示を八街中学校美術部が担当。






『THE八街駅展2』  
2017年4月16日(日)～30日(日) 八街駅市民ギャラリー

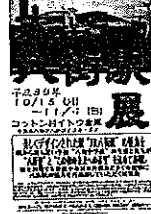
昨年度の写生会(2年目の写生会)より、5月に写生会を行い1学期に作品完成することができるようになったため、多くの作品を秋以降の作品展に応募することができるようになる。これにより、前年度「こども県展(主催:千葉日報社)」や「八街市情報展」で受賞した作品を中心に展示するの形が定着する。「THE八街駅展2」は、「こども県展」や「八街市情報展」の受賞した作品21点を展示。





『THE八街駅展3』  
2018年4月18日(水)～29日(日) 八街駅市民ギャラリー

昨年度「こども県展」や「八街市情報展」の受賞した作品を中心に20点を展示。  
4月23日(月) 読書新聞朝刊27面千葉版に「八街駅周辺の風景 中学生が描いた20点」の記事が掲載される。



『大八街駅展(THE八街駅展第35回特別展)』  
2018年10月15日(月)～11月4日(日) コットン村イトウ倉庫特設ギャラリー

シャッター画のペンキ置き場としてお世話になっていた倉庫を改造した特設ギャラリーに、第10回八街ミュージアム内の企画として、八街駅に特化した平面・立体作品を週ごとに入れ替えて展示。会期中、市内書道家による、市内課題の画展あり、イラストの出品あり、ライブパフォーマンスも予定されている。



『THE八街駅展4』  
2019年4月17日(水)～29日(月) 八街駅市民ギャラリー

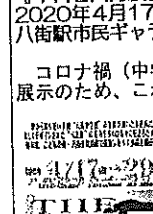
昨年度「こども県展」や「八街市情報展」で受賞した作品を中心に19点を展示。

**展示スペース**  
『八街駅市民ギャラリー』  
(JR八街駅自由通路)

八街駅にあるショーウィンドウ型ギャラリー。四つ切りサイズ24枚が展示可能。八街市教育委員会社会教育課が管理。


**展示スペース**  
『コットン村イトウ倉庫特設ギャラリー』  
(2018年使用 八街駅南口商店街)

倉庫を改造した3週間限定特設ギャラリー。シャッター画のペンキ置き場としてお世話になっていた倉庫を、期間限定で改造。作品はイーゼルを12台を設置して12点前後、展示可能。"布"プロジェクトとして、壁面は行事の総称を再利用!



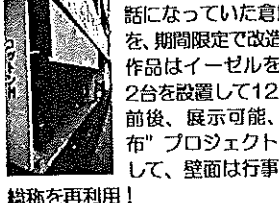

『THE八街駅展5』  
2020年4月17日(金)～29日(水) 八街駅市民ギャラリー

コロナ禍(中学校臨時休業中)での展示のため、これまでのように、準備や展示を八街中学校美術部員がおこなうことができず、初めて教師のみでおこなう。昨年度「こども県展」や「八街市情報展」で受賞した作品17点を展示。「もうひとつの八街駅展(ギャラリー拓道)」と同時開催。初の2ヶ所での八街駅展開催となる。



『八街中学校美術部展episode16 "もうひとつの八街駅展"』  
2020年4月12日(日)～6月29日(月) 八街駅市民ギャラリー拓道

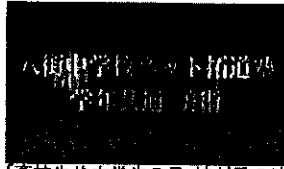
「THE八街駅展5」に、展示作品以外に美術部員の手による作品10点を展示。臨時休業あり、2ヶ月半の長期展示となる。

出典:『八街ミュージアム報告書1997-2020-街は小、中学校の卒業生で構成されている』印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部 p.16-17.

《鑑賞》：【3年生※1, 2年生自由課題「動画配信授業 - 八街駅」(全5回)】

臨時休業中の4月から5月にかけて、3年生(1, 2年生自由課題)の動画配信授業として「八街駅(全5回)」を配信しました。前半(第1回～第3回)は身のまわりのデザインについて考える内容。後半(第4回・第5回)は街に出て絵を描くことや、街に作品を展示することを通して、社会における美術の役割を考える内容です。オリジナル動画と関連動画(NHKやYouTube等)を合わせて約20分の動画を視聴した後、約20分でレポート(第5回のみ実技を含む)を作成します。これは、2020年3月(臨時休業開始直後)に開講し、中学校のHP・マチコミメール・Googleドライブ・YouTubeを活用して配信した「ネット拓道塾」の動画配信授業の一つです。



すでに夏休みの学習会として定着していた「拓道塾(たくどうじゅく)」をネット版にした「ネット拓道塾」です。5月までの3ヶ月で全学年で約180本の動画配信授業を作成しました。「ネット回線等に関するアンケート調査」により、新3年生の98%が、何らかの方法でホームページの閲覧や動画の視聴が可能であることがわかりました。ただし「親がテレワーク中は使用不可」



「高校生や大学生の兄・姉が昼の時間帯はオンライン授業のため使用不可」など、時間の制約があることもわかり、時間を選ばず、後から見せる動画配信の形をとりました。多くの教科で、3年生は必修課題としたため、希望者は予約制でパソコン室を使用できるようにしました。

第1回「日本の美しくデザインされた駅たち」 2020年4月23日(木)の動画配信授業 4分41秒 +NHK高校講座美術I「建築」



「何のためにデザイン性の高い駅は存在するのだろうか」

日本各地に存在する、八街駅のようにデザイン性の高い駅を紹介。なぜ、四角い駅ではなく、デザインにこだわった駅は存在するのかを問う。



第2回「八街駅のデザインを考える(1)もの」 2020年4月30日(木)の動画配信授業 4分4秒 +NHK高校講座美術I「グラフィックデザイン」

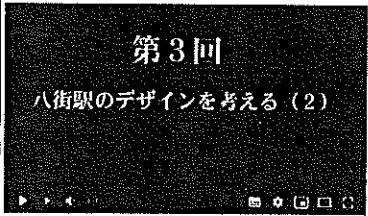


「何かの形からデザインされたものを、さがしてみよう」

「ハリネズミ型のシュガーポット」「富士山型のカップ」「タコ型の小物入れ」「砂時計型のお皿」「鼓型の駅」など、ものの形からデザインされた工芸作品や駅を紹介。八街駅や交番の屋根が、落花生の形からデザインされていることに気づき、身近にあるデザインに興味をもつ。



第3回「八街駅のデザインを考える(2)文字」 2020年5月13日(水)の動画配信授業 8分 +NHK高校講座美術I「文字」

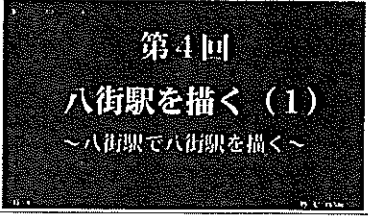


「文字の種類や、形や色の違いを気にして、身のまわりの文字をみてみよう」

八街駅の屋根や、ロータリーの時計の台が、漢字の「八」からデザインされていることを知る。文字をデザインにいかしたもの、美しくデザインされた文字など、身のまわりにあふれている様々な文字に興味をもつ。



第4回「八街駅を描く(1)八街駅で八街駅を描く」 2020年5月20日(水)の動画配信授業 5分44秒 +YouTube「パリの風景」

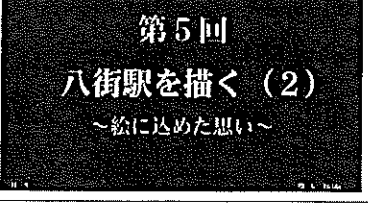


「八街に住む皆さんが、八街駅で八街駅を描くことには、どんな意味があるのだろうか」

見慣れているはずの八街駅。しかし実際に絵を描くことで、初めて気づくことも多い。自分と異なる視点で八街駅をみている仲間存在にも気づく。写生会を行うことの意味を考え、自分の言葉で表す。

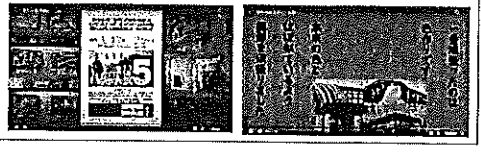


第5回「八街駅を描く(2)絵に込めた思い」 2020年5月27日(水)の動画配信授業 5分41秒 +実技: 身近にある美しいと感じる物や風景を描き、理由を①色②形③自分との関係性(愛着や思い)の視点で説明する。



「作品と作者の言葉から、感じ方の違いや表現の違いを考えよう」

先日まで八街駅市民ギャラリーで開催されていた「THE 八街駅展5」の展示作品の中から、5つの八街駅を鑑賞する。同じ日に、同じ八街駅を見ているのに、様々な八街駅が完成するのはなぜか。表現の違いを楽しみ、興味をもつ。



③「八街ミュージアム展の鑑賞（中学校2年）」地域型展覧会を利用した《鑑賞》

《鑑賞》：【2年生「美術を通して社会にどう貢献できるか」(3時間)】

3学期の授業で制作した作品は、《発表》の場がほとんどありません。八街中学校では2019年より、2年生が前年度3学期に制作した「寄せ木彫刻」を八街ミュージアム展に展示しています。本題材は、自分や級友が1年前に《表現》した作品が《発表》されている八街ミュージアム展に足を運び、作品の《鑑賞》や街の人々との対話を通して、美術と社会の関わりを考えます。

- 1時間目：・八街ミュージアムHPを使い、八街ミュージアム展の経緯や、現在の展示の様子を知る。※HPを授業用にリニューアル  
 2時間目：・展示作品や展示の様子を画像で確認しながら、商店街での作品鑑賞と質問の計画を立てる。  
 3時間目：・商店街での作品鑑賞とお店の方へのインタビューを行う。※「小学校での街探検」「中学校での写生会」の経験を生かす。  
 3時間目：・商店街での体験と、インタビュー内容を元に、自分たちがつくった作品が、街や人にどのような影響を与えているのかを話し合い、「美術を通して社会にどう貢献できるか」を考える。

2019年度 第2学年 美術科学習指導案（一部抜粋）

1 題材名 美術を通して社会にどう貢献できるかー八街ミュージアム展の鑑賞ー



2 題材について

(1) 題材観

八街市は20年以上前より、小中連携を初めとした様々な連携に力を入れてきた地域である。これは学級、学年、学校という、閉ざされた集団で起こる諸問題を、子どもたちが地域や保護者など多くの他者と関わることで乗り越えた歴史があるからである。それぞれの学校が「連携」と名の付くものを貪欲に取り入れてきた。新たな連携の可能性を模索し、連携によって生まれた様々な取り組みを称賛してきた。連携の必要性を多くの教員が感じていることと、生徒指導的な問題を乗り越えてきた地区だけに、指導力のある、生徒思いで熱心な教員が多いこと、そうした素地の上で、どの学校も主体性をもって様々なチャレンジを繰り返してきたことが、八街市の連携教育充実の理由である。

市内で最も古い中学校である本校は、市の中心に位置し、市役所やJR八街駅から最も近い学校である。駅北口から中学校までの直線道路は「花ロード」と呼ばれ、近隣の高校が育てた苗を、地域のの方の指導の下、中学生がプランターに植え替え、歩道に並べ、毎朝水をあげて育てているものである。毎年5月には、1学年約200人が落花生型の八街駅を描く写生会を行っている。完成した作品は八街駅自由通路のショーウィンドウ「八街駅市民ギャラリー」に展示する。自由通路を通過して南口に出ると、現在開催中である「八街ミュージアム展」のメイン会場、八街駅南口商店街がある。



市内図工・美術科と八街駅南口商店街との積極的な関わりは、2004年、落書き防止のためのシャッター画制作を八街中央中学校美術部が依頼されたことに始まる。2009年、商店街を美術館に見立てた企画を学校側が商店街にもち込み、小中学校2校による「第1回八街ミュージアム（現、八街ミュージアム展）」が開催される。2015年には市内全小中学校（12校）が参加。アートプロジェクトとしての可能性を模索しながら徐々に広がりを見せる11年目の本年度（2019年）は、会場も東西南北に広がり、アーティストの個展や、演劇祭、市民文化祭との連携も実現した。八街ミュージアムによる

り、小中学校の図工・美術主任のつながりも密になり、学校と地域が主体的にアイデアを出し合う関係もできつつある。今年8月の夏祭りでは小中学生が着色した傘が夜空を彩る「お祭りちようちん傘プロジェクト」が商店街の企画で立ち上がった。シャッター画は、街の記憶を残したいという商店街の想いに答える形で、現在も毎週土曜日に行われている。学校行事の横断幕を商店街に寄付し、街のあちこちに飾る「布プロジェクト」も、昨年度よりスタートした。ゆっくりではあるが確実に、アートを軸にした街づくりが加速しているように感じる。

本題材は生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育てるために、日鑑賞イ、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考え、見方や感じ方を広げたり深めたりする学習である。美術科の授業の内容を学校内で閉じることなく、生活や社会とつなげて関わりをもたせ、気付かせる工夫をしながら、主体的に生活や社会の中で美術を生かし、創造していく態度を養う。商店街での鑑賞では、造形的な視点を意識させることで、漠然と見ているだけでは気付かなかった形や色彩などの働きに気付かせる【共通事項ア】。さらに店主との会話や、作品が店に溶け込むように展示されている様子を見ながら、美術が社会にどのように関わっているかを、実感をもって感じさせたい【共通事項イ】。



3 指導計画（3時間扱い）

時配	主な学習活動
1	①グループでタブレットを使った調べ学習「八街ミュージアム展って何だろう？」を行う。（八街ミュージアムHPを使用）
1	②各自の「問い」と「鑑賞の視点」を考え、どの店舗で鑑賞するか、何を聞くかなどの計画をたてる。
1	③グループごとに、店内を想定したロールプレイングを行う。
1	④美術は街とどのように関わっているのかを考えながら八街ミュージアム展を鑑賞する。
1	⑤4人組の学び合いを行い、思考ツールで考えを整理しながら、「美術を通して社会にどう貢献できるか」を考える。

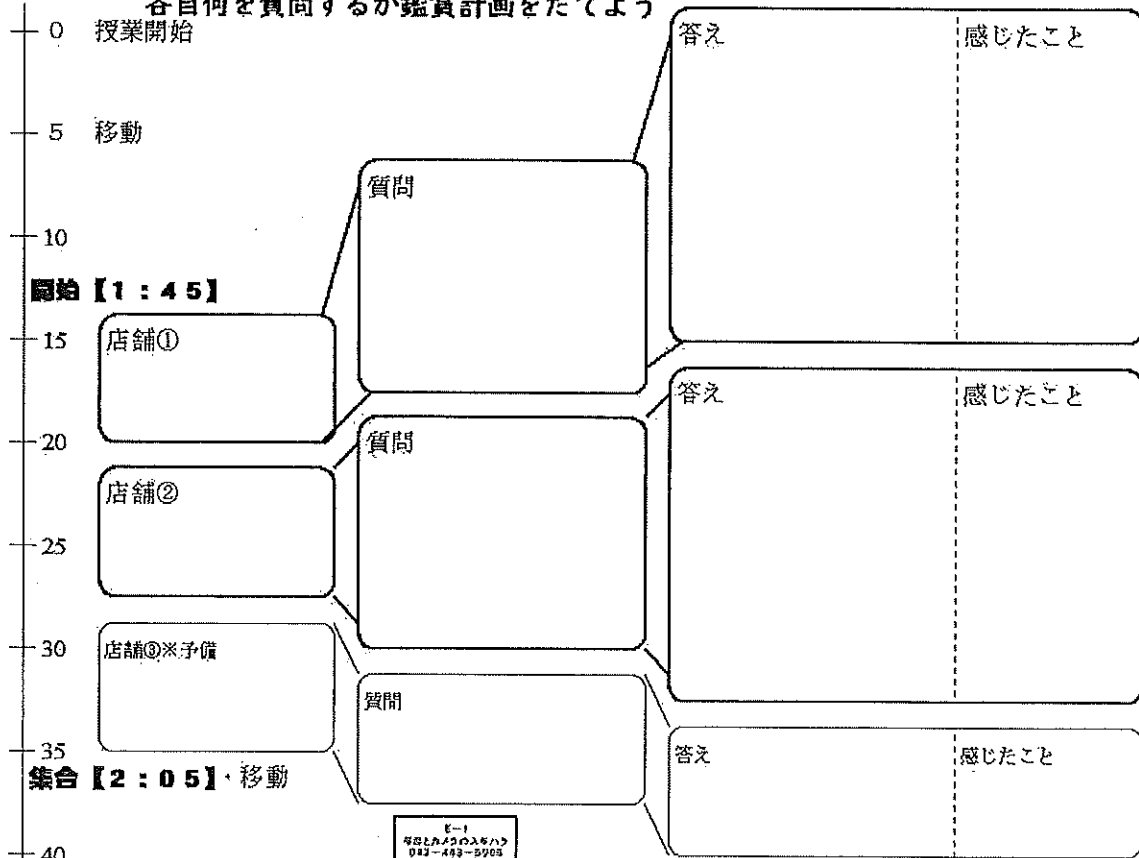
出典：『八街ミュージアム報告書1997～2020～街は小・中学校の卒業生で構成されている～』印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部 p.18.

2018.10.20 八街市立八街中学校校内授業研修会を実施

# 八街ミュージアム展の鑑賞

1 八街ミュージアム展について調べよう

2 グループでどの店舗に行くか(2~3店舗)、各自何を質問するか鑑賞計画をたてよう



E-1  
専攻士カメライノ入会  
043-443-5905  
【営業時間】  
P: 00~12:00  
【休館日】日【年中無休】

E-2 リンクワーク 043-443-1151 【営業時間】 P: 10~18:30 【休館日】日【年中無休】	E-3 原田商店 043-444-0418 【営業時間】 A: 00~10:00 【休館日】日【年中無休】	E-4 いざいずクワン 043-444-5097 【営業時間】 P: 00~17:00 【休館日】日【年中無休】
--	--	---

店舗をマークで  
ぬっておこう

E-9  
コトノチイノウ  
043-444-0174  
【営業時間】 P: 00~18:00  
【休館日】日【年中無休】

E-5 山田商店 043-444-0070 【営業時間】 P: 00~18:30 【休館日】日【年中無休】	E-6 金太郎少田商店 043-444-0067 【営業時間】 P: 00~20:00 【休館日】日【年中無休】	E-7 探究館 043-444-0290 【営業時間】 P: 00~18:30 【休館日】日【年中無休】
--	---	---

E-11  
歴史博物館 (1階) 043-443-1941  
【営業時間】 P: 00~18:00  
【休館日】日【年中無休】

E-12  
Naga Up1 (2階) 043-444-3221  
【営業時間】

パルナミ コキス 料理  
(1階) 1071111 (9) ~ 1111311 (日)  
11:00~18:00 【休館日】上日

E-13  
時子精工製陶館 八街表座  
043-443-3071  
【営業時間】 P: 00~18:00  
【休館日】上日【年中無休】

メモ

年 組 名 前

## 4 結 論

### (1) 成果

・アートプロジェクトの視点を取り入れた八街ミュージアムの見直しを、コロナ禍前（2018年～2019年）に行え、数々の新たなチャレンジが行え、今後の方向性が見えたことの意味は大きい。制限の多い現状でも、2019年までの経験をもとに、八街ミュージアムの様々な可能性を模索することができている。

・八街ミュージアムで街の人と関わる中で、「この街をもっと良くしたい」「街全体で子どもたちをよりよく育てていきたい」と考える、多くの魅力的な人と出会うことができた。こうした魅力的な人と中学生が出会う機会をつくりたいという思いが高まり、コロナ禍直前、2020年1月の社会人講話（2学年155人参加）に7人の方を呼ぶことができ、美術教育以外での連携の可能性も広がった。

### (2) 課題

・コロナ禍において、これまでのような地域連携の形は難しい部分も多い。コロナ禍で、全国のようなアートプロジェクトも中止になり、情報も少ないが、今後も全国の動向を注視し、八街ミュージアムの可能性を模索していきたい。

・様々な地域で実践されている既存のアートプロジェクトが小・中学校の美術教育に注目するような仕掛けも必要に感じる。美術教育と、社会における美術が地続きになる連携の形を模索していく。

・八街ミュージアムは様々な広がったが、複雑にしすぎると引き継ぎ等が大変になる。基本的な部分についてはシンプルにししておくことで、自由度が増し、継続、発展につながるように感じる。

### (3) まとめ

様々な地域で実践されているアートプロジェクトは学校や美術が街と関わる際の参考となり、八街ミュージアムにアートプロジェクトの視点を取り入れたことで、美術を軸とした地域連携は、これまでになかった広がりを見せた。多くの先生方、商店街の方、街の方が主体的に関わってくれたことや、街の人や児童・生徒からの好意的な感想が多かったことから、美術教育と街の双方に利のある地域連携に向かっていると言える。またアートプロジェクトの視点は、新学習指導要領における授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」と共通することも多く、授業改善にも大いに役立った。《表現（制作）》《発表（展示）》《鑑賞》を、学校を含む街全体で循環させよう意識したことで、既存の題材も、より学び多い題材になったように感じる。

今後、美術が地域と学校を繋ぐ重要な役割を担い、美術が地域連携に長けた教科であることを目に見える形で証明し続けていけば、学校教育における美術科の存在意義は確固たるものになると感じる。